

「妻木頼黄コーナー」では、企画課の手で生い立ちから建築作品集までわかりやすく展示され、倶楽部員が各地で撮影し



されました。また、今回の展示の目玉で、招鶴亭文庫から赤レンガ建物の「棟札」と、「昭和初期の半田の鳥瞰図」を拡大したものをお借りして展示しましたが、特に鳥瞰図は非常に迫力があり、見学者は足を止め知多半島の歴史、明治の半田に建設されたこの建物の大きさを想像していました。

公開初日は、「段ボール鎧かぶと」の試着コーナーがつくられましたが、東浦町商工会「手づくりよろいの会」の皆さんの手作り段ボール鎧かぶとはダンボール製であることがわからないほど精巧に出来ており、親子で試着して本物の兜鎧の前で写真撮影していました。また記念の缶バッジづくりも人気がありサークルフラッシュクラブの方にお手伝いいただきました。（ありがとうございました）



段ボールかぶとの試着・右端は本物

「ミニ兜とカブトビールセット」は、前日に NHK で放映されたこともあり限定 20 セットが開場即完売となりました。来年も是非行っていただきたいと最終日まで大勢の方から問合せいただきました。その他、昔なつかしい「新聞紙で折るカブト」も人気があり、建物案内のお手伝いいただきました淑徳大の学生たちは、子供達に優しく教えていました。

恒例となったドイツパンの販売コーナーでは、珍しいドイツパンが店頭販売され、お昼時には南側のレンガ広場で腰掛けて、冷えたカブトビールと一緒に美味しく味わっていました。ドイツではこのような昼食スタイルが一般的であり、新たなライフスタイルが半田市から生まれるかもしれないですね。



モザイクタイルづくり

最終日はあいにくの雨降りでしたが、日本建築学会主催による「親と子の都市と建築講座」が開かれました。専門の先生によるわかりやすい煉瓦構造の話があり、子供達も熱心に聞きっていました。また、モザイクタイルのコースター作りのコーナーでは、世界に一つしかない作品を作っていました。こちらは大勢のお客さんと賑わい、きっとよい思い出になったことでしょう。

最後に、3 日間の来場者は半田市内のリピーターの方、市外、県外からのお客様総数 3,800 名がご来場していただきました。お手伝いいただきましたボランティアの方、各団体の方、スタッフの方々のご協力により無事に終了することができ感謝申し上げます。

今後理事会では赤レンガ建物にすれば「何かおもしろいことがあるよ!」、「ここでしか味わえないものがある」、「ここでしか楽しめないものがある」というようなイベントを企画していきたいと思っています。倶楽部員の皆様にアイデア、ご意見をいただくとともに、



将来の赤レンガ建物をシンボリックな構造物だけではなく、市民、一般観光客にも自由に利用できる「ものづくりテマゾーン」になることを願っています。（小林）

■ NEWS 02

帰ってきたぞ！成岩公民館！

昨年は、真新しいクラシティ3階のミーティングルームで『新春合宿』をやってしまったが、今年は帰ってきたぞ！成岩公民館！古い街の歴史的ランドマークを大切にするのが、赤煉瓦倶楽部半田なのだ。不思議なことにきれいなクラシティでは味わえないなんともいえぬ落ち着き？癒し？安堵感？が成岩公民館にはあるのだ。まさに赤レンガ建物の存在価値を無言で教える成岩公民館。そんな感激に浸りすぎたため、『新春合宿』の中身はあまり記憶にありません。間違いなく熱心な議論が繰り返されていたのですが、2次会ですぐ近くの大番に立ち寄ったことしか思い出せません。まあこんなもんだ！『新春合宿』（堀寄）

■ NEWS 03

蔵のまち雑まつり

2月28日(土)、3月1日(日)と半田市の蔵のまち雑まつりと連動して、赤レンガでも一般公開を行いました。初日1,800人、2日目1,300人と計3,100人のお客様を迎え入れ、盛況で終了しました。

新たに会員に加わって下さった石原さんによる、今回の目玉「ドイツパンコーナー」が大盛況で、お子様からご年配の方々まで、試食をして下さったお客様が、「美味しい、美味しいと」笑顔で購入して下さった姿が印象的でした。赤レンガ建物の新たな名物が生まれた瞬間でもありました。また、喫茶コーナーでは、昨年からご好評頂いています、黒酢のドリンクをホットで提供したところ、思っていたより、好評頂き、2日間で、95杯も販売できました。

これからも、赤レンガと半田の文化に基づいた商品を開発し、多くのお客様にご来場頂き、建物の魅力を感じて頂ける様に、頑張っていきたいと思っております。今回も、ボランティアの皆様、学生さん多くの方々の力で成功したと思います。皆で心一つにして、赤煉瓦倶楽部を盛り上げて行きましょう！ (新海)



■ NEWS 04

赤レンガ建物でテレビドラマの撮影！

旅番組などでよく取り上げられている赤レンガ建物ですが、6月13日(土)、初めてテレビドラマの撮影がされました。

タイトルはNHKスペシャル・終戦ドラマ「気骨の判決」(仮)、舞台は太平洋戦争下、昭和17年の日本、東條英樹が敢行した衆議院解散総選挙により、聖戦遂行の美名の下、権力側による露骨な選挙妨害が行われ、国民の「投票の自由」は奪われた。その後「選挙無効」の訴訟が各地で起こったが、「翼賛体制」の中で訴えはことごとく退けられた。そんな中、政府の圧力に屈せず、死を賭して唯一の「選挙無効判決」を下し、国民の権利、司法の独立を守った裁判官・吉田久がいた・・・



た裁判官・吉田久がいた・・・

赤レンガ建物では大審院の表の一角で主人公らが防空壕を掘っているシーンの撮影でした。当日は俳優さん、半田で募集されたエキストラさん、たくさんの撮影スタッフ・機材が集まり、少々蒸し暑い中で白熱した撮影がされました。半田で募集されたエキストラ約15名には、倶楽部員も「多数」応募し、うち6名がテレビドラマにデビューを果たすことになりました。なお「30代後半～60代の男性で、「あまり恰幅がよくないこと」という条件の後半部分に引っかかり、残念ながら出られなかった倶楽部員が多数あったことを申し添えておきます。

ご存じの通り、横浜の赤レンガ倉庫では様々な撮影がされていますし、博物館明治村では年間5～6本、北九州の門司ファクトリーパークでは、2009年の大ヒット映画「K-20 怪人二十面相・伝」の撮影がされています。ほとんど手を加えられていない半田の赤レンガも、雰囲気の良いロケーションではないでしょうか。今後の展開が期待されます。

放送予定は、平成21年8月16日(日)21時 / NHK総合 / デジタル総合にて、乞う、ご期待！ (山口)



